

目標数値:太字、実績:《》
達成済み:青字、未達:茶字

達成済み:25/29事業
未達:4/29事業
うち新型コロナウイルス感染症の影響による未達2事業

「令和元年度磯子区運営方針」抽出事業（9事業）の振り返り（下半期）

施策名	今年度の主な施策等の内容 (目標等)	下半期（令和元年10月～令和2年3月分）		事業評価委員の意見
		主な実績	現状の課題と対応策等	
魅力にあふれた住み続けたいまち	(1)区の魅力の創出・発信 ①「磯子の逸品」の追加認定 3月《9月》 ②磯子まつりの開催 来場者満足度80%以上《99.6%》	① 周知のための冊子を作成 ② 磯子まつり振興委員会(11/6)で来場者アンケートの集計・分析結果を報告、磯子まつりイベント部会(2/13)で来年度の企画内容を検討、磯子まつり振興委員会(3/6)は書面表決で実施。	① 来年度は、冊子の配布やよこはまウォーキングポイントアプリと連携したスタンプイベントの開催などにより、「磯子の逸品」のさらなる周知に取り組む。 ② スタンプラリーの実施により離れたまつり会場(磯子センター、磯子土木事務所)の回遊性に一定の効果（2会場の両方あるはいずれかに行った人の割合45.8%）が見られたが、さらに高める方法を検討する。来年度は、公会堂が耐震工事で利用できないため、開催内容について、振興委員会の中で議論を進める。	① 駅等のPRボックスに配架するなど、今後は区外の方に向けたアクションやPRも考えてほしい。 ① 磯子まつりなどでアンテナショップとして区民の皆さん等に食べる機会を作ること必要だと考える。 ② 磯子まつりで毎年飛ばしている風船に手紙を付け、事業や取組などをPRし、他都市等との交流につなげてはどうか。 ①② どちらの取組も区外の方々とコミュニケーションを取るチャンスとなるので、それを生かしていくことが大切である。
	(2)商店街のにぎわいづくり ①商店街朝市の開催 8回《8回》 ②商店街魅力発信イベントの実施 8月《いそご商店街宝くじの開催 8月》	① 3回 (10/26、11/2、1/25)【 累計8回 】 ② 参加店舗へのアンケート結果を区商連と共有(10月)、景品引換期間終了(10月)、来年度実施に向けた区商連との打ち合わせを実施し、参加者の募集を開始(1月)	① 店主の高齢化等により出店者が減少するなか、新規参入店舗の定着が進まず、昨年同期と比べて出店数が減少した。定例会などで、各商店街に新規・再出店や継続出店を呼びかけるとともに、出店者の増に向けて、出店を呼びかけるチラシを作成し、各商店街の会長から加盟店舗に配布してもらえるよう、区商連と協力して進めていく。 ② アンケートにより、事業効果を評価する意見が多く寄せられたが、改善点を指摘する意見もあった。来年度の企画については、今年度の仕組みをベースに、より商店街の魅力を伝えられるよう区商連と検討を進める。	① 参加店舗を増やすためには、「参加したいがハードルが高い」と感じている人のハードルをどうやって下げていくのかが大切である。また、まったく興味がない人に対しては違うアプローチの仕方になると考える。
	(3)ガーデンネックレス横浜と連携した「緑花」の推進 ①はまぎんこども宇宙科学館への立体花壇の設置 4～7月《4～7月》 ②花の種の配付 5月～《5月～3月》 ③区庁舎前 花時計の継続設置 通年《通年》 ④花の栽培を通じた民間保育園・幼稚園や地域との交流活動 14回《15回》 ⑤地域団体への活動支援 8回《10回》	① — ②配付～3月【申込数 累計198人累計1,971袋】 ③継続設置 通年 (植替11/20、1/9) ④11回 (636人)【 累計15回 (849人)】 ⑤5回 (花の苗の配布1回1,500株、講座4回106人)【 累計10回 (花の苗の配布2回2,700株、講座8回149人)】	①②③ ガーデンネックレス横浜との連携や、区民の「緑花」への関心を高めるため、引き続き情報発信としてツイッター等を活用するほか、他の方策も検討する。 ① 来年度に向けて、駅前など多くの区民が利用する場所への設置を検討する。 ② 種から花を育てることが難しいとの声があったため、来年度は花の育て方講座を開催し、さらに多くの区民の「緑花」への参加を目指す。 ④ 計画どおり進行し、目標を達成した。 ⑤ 計画どおり実施し、目標を達成した。	③ 花時計の花が非常に鮮やかで、カラーコーディネートがうまくいっていると感じる。
いきいきと暮らせる健康 (4)保護者の悩みに寄り添った子育て支援 ①子育て支援連絡会の開催 4エリア計8回《4エリア 計15回》 ②怒らない子育て方法実践講座の実施 (各4回コース) 2会場計30人《2会場 計17人》 ③効果的なほめ方などの教育法を用いて子供と向き合う方法を学ぶ育児プログラム 初級指導者養成講座実施 1回15人《1回 15人》	① 3回【 累計4エリア 15回 】 ②1会場 8人 (屏風ヶ浦地域ケアプラザ 11月)【 累計2会場 計17人 】 ③ 受講5か月後の参加者にアンケートを実施	① それぞれのエリアにあった子育て支援活動を地域とともに話し合い、実施することができた。今後もこの取組を継続していき、地域と親子がつながる仕掛けを子育て支援拠点とともに支援していく。 ② 参加者からは「実践的でわかりやすく、自宅で実施したら子どもとの関係も改善した」と講座内容が大変好評であったにもかかわらず、定員に達しなかった。来年度は参加者の増加を目指し、募集する方の子の対象年齢の拡大を検討する。(3歳～未就学児を小学1年生まで拡大) ③ アンケートから、講座内容が子育て支援の現場で活用されていることが伺えたため、来年度はもっと受講人数が増えるようなやり方等を検討していく。また、今年度の経験を生かして前もって準備を進め、年度前半の実施を目指す。	② 日中働いている母親も多いので、開催日や時間を考慮する必要がある。 ② 開催する会場によって参加が困難な人がいると思うので、開催場所についても検討してほしい。	

施策名	今年度の主な施策等の内容 (目標等)	下半期(令和元年10月～令和2年3月分)		事業評価委員の意見
		主な実績	現状の課題と対応策等	
いともいき支えあい、暮らしを健康で	(5)地域包括ケア推進 ①「エンディングノート」書き方講座の受講者 累計12,300人《累計13,684人》 ②認知症サポーターの養成 累計16,700人《累計17,766人》 ③元気づくりステーションの活動支援 25か所《27か所》 ④介護予防を担う人材育成のための元気づくりステーション交流会の開催 3回《3回》 ⑤地域ケア会議など地域と行政による生活支援のための連携・協議の場の開催 14回《12回》 ⑥在宅療養生活についての講座等の開催 5回《3回》	①816人【累計13,684人】(10月6回、11月6回、12月4回、2月3回、他窓口説明) ②1,094人【累計17,766人】(10月7回、11月3回、12月3回、1月4回、2月2回) ③引き続き活動支援を実施 ④3回【累計3回】(区全体の交流会11月、洋光台地区12月、滝頭地区2月) ⑤5回【累計12回】(区レベル地域ケア会議12月1回、包括レベル地域ケア会議等12月3回、包括レベル地域ケア会議等、2月滝頭エリア1回) ⑥2回【累計3回】(10月磯子エリア1回、12月上笹下エリア1回)	①ノート紹介リーフレットやノートを書いたことを伝えるカードの配布を進め、さらに啓発を行う。 ②小中学校や企業等、幅広い対象者に養成講座の実施を働きかけ、さらに啓発を進める。 ③担い手養成講座を10月に3回開催した。活動の担い手を確保するという課題があり、元気づくりステーション維持・活性化に向け取組を引続き行う。 ④区域及び地区の交流会が更に活発に実施されるよう、地域ケアプラザと連携しながら支援を進める。 ⑤生活支援に関する話し合いを継続していけるように、地域ケアプラザと連携しながら、必要な支援を進める。 ⑥出前講座については、全ての地域ケアプラザのエリアで開催ができるように、今後、在宅医療拠点相談室とも連携しながら、働きかけをしていく。	①②③④⑤⑥新型コロナウイルス感染症の対策で会議やイベント等が中止になることも多いが、地域ケアプラザ等、現場で判断することは非常に難しいので、区役所で相談を受け、地域の事情も汲み取りながら意思決定をサポートしてほしい。
	(6)磯子区地域福祉保健計画「スイッチON磯子」の推進 ①スイッチON磯子事業補助金活用事業数 89事業《89事業》 ②第4期磯子区地域福祉保健計画の骨子作成《骨子確定》	①－ ②骨子案に係る意見交換会の実施(策定・推進検討会10月、各種分野部会・地区部会12月)、骨子確定(各種分野部会・地区部会2月、策定・推進検討会3月(書面開催))	①実施済み89事業 ②骨子案について、第2回各種分野部会・地区部会(2月開催)や庁内で意見交換を行い、第2回策定・推進検討会(3月開催)において最終案を提示し、確定。また、確定した骨子案に基づき、区域計画及び地区別計画の策定を進める。	②地域福祉保健という言葉が高齢者などに限定するイメージを持つかもしれないが、実は当事者だけでなく、すべての地域住民が含まれているという認識を作っていくことが必要である。
安全・安心で住みやすいまち	(7)若い世代や地域とともに考える自助・共助 ①子育て世代向け防災講座の実施 参加者100人《108人》 ②小中学生を対象とした防災出前学習の実施 10回《10回》 ③防災土のうの作り方などに関する講座の実施 20団体《14団体》	①70人【累計108人】(岡村西部町内会館10月42人、いそぴょ12月28人) ②7回【累計10回】(11月2回@山王台小、12月1回@洋光台第二小、1月2回@杉田小・根岸中、2月2回@屏風浦小・洋光台第二小) ③7団体【累計14団体】(消防署との合同開催・区民まつりにおける講座開催を含む)	①区民意識調査の結果、若年世代の防災への関心が低いため、今後もさらなる啓発を行っていく。 ②授業のカリキュラムの一部として取り入れてもらうことが課題であり、早期に積極的に呼びかける。 ③単一自治会等による実施は困難であったため、来年度は土木事務所が主体となり、地域での合同開催等の実施を進めていくことを検討する。	②教育現場は多忙で、年度のスケジュールが決まっているので、前年度から働きかけを行い調整していく必要がある。 ②一度カリキュラムに組み込むことができれば、継続できると思うので、学校と相談し、理解を得られるようにしてほしい。
	(8)自治会町内会での災害に備えた要援護者支援の推進 ①災害時要援護者名簿を提供する自治会町内会の拡大 4団体《53団体》 ②自治会町内会への災害時安否確認バンダナの配付 36団体《37団体》 ③地区連合町内会未加入の自治会町内会への取組実施の働きかけ 9団体《9団体》	①53団体と協定締結(汐見台地区連合11月47団体、岡村地区連合町内会12月6団体)、協定未締結の自治会町内会に働きかけを行った。 ②バンダナ配付9団体 3290枚【累計37団体 9,426枚】 ③－	①より多くの団体に名簿提供するため、引き続き各自治会町内会に対し、名簿提供の協定締結に向けた働きかけを行っていく。 ②来年度は災害時安否確認バンダナの全戸配布を目指す。 ③自治会町内会の取組状況に応じて、バンダナや名簿に関する情報提供等の支援を行う。	①災害時要援護者名簿の提供については、引き続き働きかけを行ってほしい。
	(9)地域防災拠点の支援 ①地域防災拠点開設キットの配備及び活用方法の周知 区内全21拠点《21拠点》 ②女性のニーズに配慮したスペース確保や生活用品等の配備 区内全21拠点《21拠点》 ③地域防災拠点等における災害時ペット対策の啓発 15か所以上《15か所》	①②事業検討会(10月)で運営委員に活用方法を説明 ①拠点運営委員会で説明(4回)地域防災拠点開設・運営訓練での説明・活用(6拠点) ②「多様なニーズに対応できる拠点運営」をテーマに講習会を開催(10月)、多様なニーズへの対応のため、各拠点で部屋割り等を検討(6拠点) ③13か所【累計15か所】 拠点訓練等で災害時ペット対策の啓発を実施	①今後は避難生活が長期化した際のマニュアル作成が必要。地域防災拠点での活用以外に、マンション管理組合などからも自治防災の参考にしたいとの要望があるため、対応を検討する。 ②平時に学校側と運営委員会が協議し、部屋割りをを行うよう、その重要性について講習会などの機会に啓発を行う。 ③拠点運営委員会において訓練時の啓発の重要性を説明した結果、今まで訓練でペット同行避難の取組をしていなかった拠点で、実施することとなった。災害時ペット対策の啓発を進めていくには、飼い主だけでなく、拠点の理解・協力が欠かせないため、引き続き飼い主向けの啓発と拠点への支援及び情報提供を行っていく。	①開設キットを地域防災拠点で活用したところ、非常に好評で理解も進んだ感じた。 ・土砂災害警戒区域では土質の調査をしていないため、今後調査をしていく必要があると思う。